

上杉文華館 目録
2022年8月25日（木）～9月27日（火）
関東管領上杉氏⑥～幕府との結び付き

資料名	員数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製 上杉本 上杉憲方 洛中洛外図屏風	六曲一双	各178. 1×383. 2	原本	室町～桃山 (16世紀)	狩野永徳 上杉博物館
国宝 上杉家文書 足利義満御内書	一通	3 3.6×4 8.8	(康暦元年・1379)	4月15日	上杉博物館 文7 1 1
国宝 上杉家文書 足利義満御内書	一通	3 0.9×5 0.0	(康暦元年・1379)	4月15日	上杉博物館 文7 2 5
国宝 上杉家文書 足利義満御内書	一通	3 3.2×4 5.0	(年未詳)	8月6日	上杉博物館 文7 2 6
国宝 上杉家文書 上杉憲方書状	一通	本紙 2 6.9×3 5.5 礼紙 2 6.9×3 7.1	(年月日未詳)		上杉博物館 文3 0 2

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り広げました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第6回目は、「幕府との結び付き」をテーマとして関連文書を紹介します。今回の主人公となる上杉憲方は、憲顕の息子で山内上杉氏の惣領でしたが、宅間上杉氏の養子となっていた兄能憲、さらにもう一人の兄憲春の跡を受けて関東管領に就任しました。憲方の時代は関東管領職の職権など、基本的な地位が定まったといわれています。また、憲方は將軍足利義満の存在を背景に鎌倉府において大きな力をふるいました。そのような憲方の動向、関東管領の役割について、幕府との関係を軸に、国宝「上杉家文書」から紹介します。

「国宝上杉本洛中洛外図屏風」（複製）も展示します。2000年制作の複製で、現状を複製したものです。